

てまりのお散歩

厳しい残暑のなか、ビーチで遊ぶお客様に交じって涼を取る茶色い影…。ミナミアメリカオットセイのてまりです。昨年か飼育エリアから外に出るトレーニングを積み重ね、とうとう海水浴を楽しめるまでになりました。繊細で臆病なので、ちょっとした物音や地面のでこぼこ、お客様の歓声に驚いて飼育エリアに逃げ帰ってしまう事も多いのですが、トレーナーと一緒になら怖くない！と感じてもらえるよう、私たちは日々努力しております。

ゆくゆくはお客様とふれあえるよう頑張っていますので、遭遇した際は温かく見守ってくださいね。



OMRC子どもエコクラブ活動中

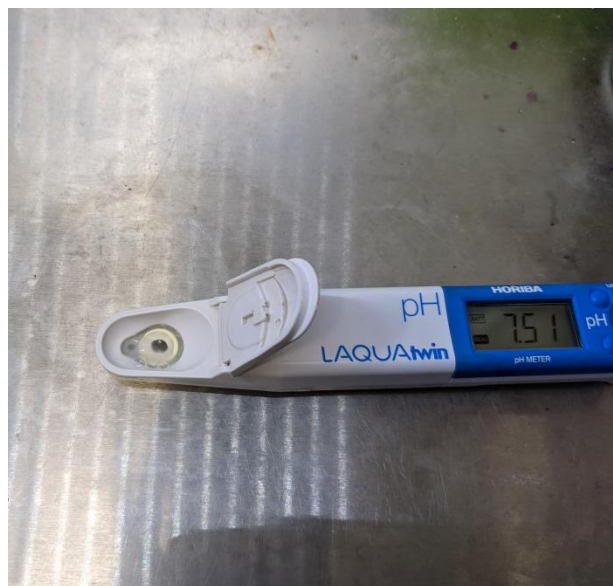


7月の活動日はあいにくの雨。風向きは南西の風でした。恩納村は南の方角から吹く風は島影に遮られて岸には吹き込まないので、ビーチには漂着ゴミが流れ着いていないように感じますが、よく見ると足元や岩陰などには小さなプラスチック片が散在しています。また、前回と大きく違ったのは、岸沿いに生えているアダンの木の根元に大きな粗大ゴミが多数引っかかっていたこと。活動の少し前に、台風が南の海上を通過しており、波やうねりがあったことから、沖合から漂流してきたのかもしれませんが、大雨によって、内陸の方から流されたのかもしれませんが。子どもたちは、「前回と違って、今回は大きなゴミが沢山落ちているね」、「日によって流れ着くゴミの種類が変わるんだね」と驚いた様子でした。

ビーチクリーンが終わった後は、近海に生息する魚を調査する為、前回設置した魚の仕掛けをチェックしに向かいました。残念ながら仕掛けの中に魚はかかっておらず、残念そうな子ども達もいましたが、「来月も楽しみ」と明るい声を聞くこともできたので、スタッフも安心。回収した仕掛けは再度設置して今回の活動は終了しました。仕掛けの設置・回収は今後もスタッフが継続して行くと同時に、月に一回は子ども達と一緒にチェックをし、近海のお魚調査を進めていきたいと思えます。

人工授精プロジェクト～精液性状検査①～

OMRCではバンドウイルカの人工授精技術の確立に力を入れており、赤ちゃんイルカの誕生という成果も得られています。その技術に欠かせない、オスイルカの精液性状検査についてご紹介します。



Vol.2でご紹介した方法で採取したオスイルカの精液は、人工授精に使用する前に様々な検査を行います。OMRCでは、色調(精液の色)、精液量、pH、活性、精子数、死滅精子数(精液中の精子のどのくらいの割合が死んでいるか)、奇形精子数などを検査しています。

左の写真は、精液の色調と量を測定しているところです。正常なイルカの精液は白色ですが、精巣から尿道までの間に傷があると血液が混じって赤っぽくなったり、尿の混入があれば黄色っぽくなったりします。精液量は、オスイルカの体調や、射精の合図を出すトレーナーとの息が合うかなどの条件によって異なり、一回につき数mlから15mlくらいの精液が射出されます。右の写真は、精液のpHを測定しているところで、正常な精液のpHは7.3-7.8くらいです。

コミュニケーション、どうする？



コロナ禍で対面でのスタッフ会議が難しい今、あるプロジェクトに向けてこのようなコミュニケーションボードを設置しました。それぞれが空いた時間に自分の意見を書き込み、担当者がそれをまとめて還元します。できないことを嘆くのではなく、できる方法は無いか考え、発展を目指しています。

いきもの探し ～オオジョロウグモ～



植込みの間をふと見上げると、直径1-2m程の立派なクモの巣がずらりと並んでいます。その中心にいるのは5cmほどのオオジョロウグモのメス。腹部に黒地に黄色と赤の斑紋がある、日本最大級のクモで、夏の間よく見かけます。オスは赤一色で小さく、目立たないのでなかなか見つけれられません。